

金沢大学 先端科学・イノベーション推進機構

共創型研究支援プロジェクト キックオフシンポジウム

概要説明

2018年9月26日

佐無田光(金沢大学人間社会学域)

文部科学省 地(知)の拠点整備事業

金沢大学 地域の完成を備えた人材を育て社会を繋ぐ「地(知)」の拠点 (平成25～29年度)



教育

全学必修科目「地域概論」と特設プログラム「総合地域論」の新設



研究

総合大学の強みを最大限活用した地域志向研究の推進



社会貢献

地域のインテリジェント・ライフ創造拠点としての機能強化

<http://www.coc.adm.kanazawa-u.ac.jp/index.html>

社会の知的基盤としての
役割を果たす大学

地域の課題解決を志向した学問分野横断の研究を推進し
成果を提案・行動に繋がる形で積極的に還元

これまで

表面的なキーワードを抽出

地域の1課題と1人の研究者の専門分野

地域課題の解決は困難

COC事業

ニーズ

様々な要素が
複雑に絡み合う

地域課題
課題の発掘

地域の課題解決へ

**シーズとニーズの
丁寧なマッチング**

地域から寄せられた課題について
関係する要素を整理

人間社会・理工・医薬保健の
各分野の研究者が共に
研究活動に取り組む
「起点」となるテーマを設定

関係する諸課題に対して
異分野の研究者が
チームを組成し総合的に
課題解決に取り組む

シーズ



金沢大学

対話の場を活用して
地域課題と研究内容の
乖離を防ぐ

研究成果を地域が利用
可能な形に編集・還元

大学と地域を結ぶ専任のコーディネーターが丁寧に調整・対応

COC「共創型研究支援」による外部資金獲得実績

平成26～29年度累計**29件**、**50,118**千円

＜平成26年度＞ 4件18,726千円

- ・「スマートシティこまつプロジェクト企画立案に係る共同研究」小松市（共同研究）
- ・「低温プラズマによる粉粒体食品素材の殺菌・滅菌法の研究開発」北陸産業活性化センター（R & D推進・研究助成金） 他、

＜平成27年度＞ 11件27,170千円

- ・「国保データベースを活用した健康まちづくりのためのエリアマネジメントシステムの開発」JSPS（課題設定による先導的人文学・社会科学研究）
- ・「地域包括ケアシステム構築を目指すエリアマネジメントのための国保データベースの活用」科研費（挑戦的萌芽） 他、

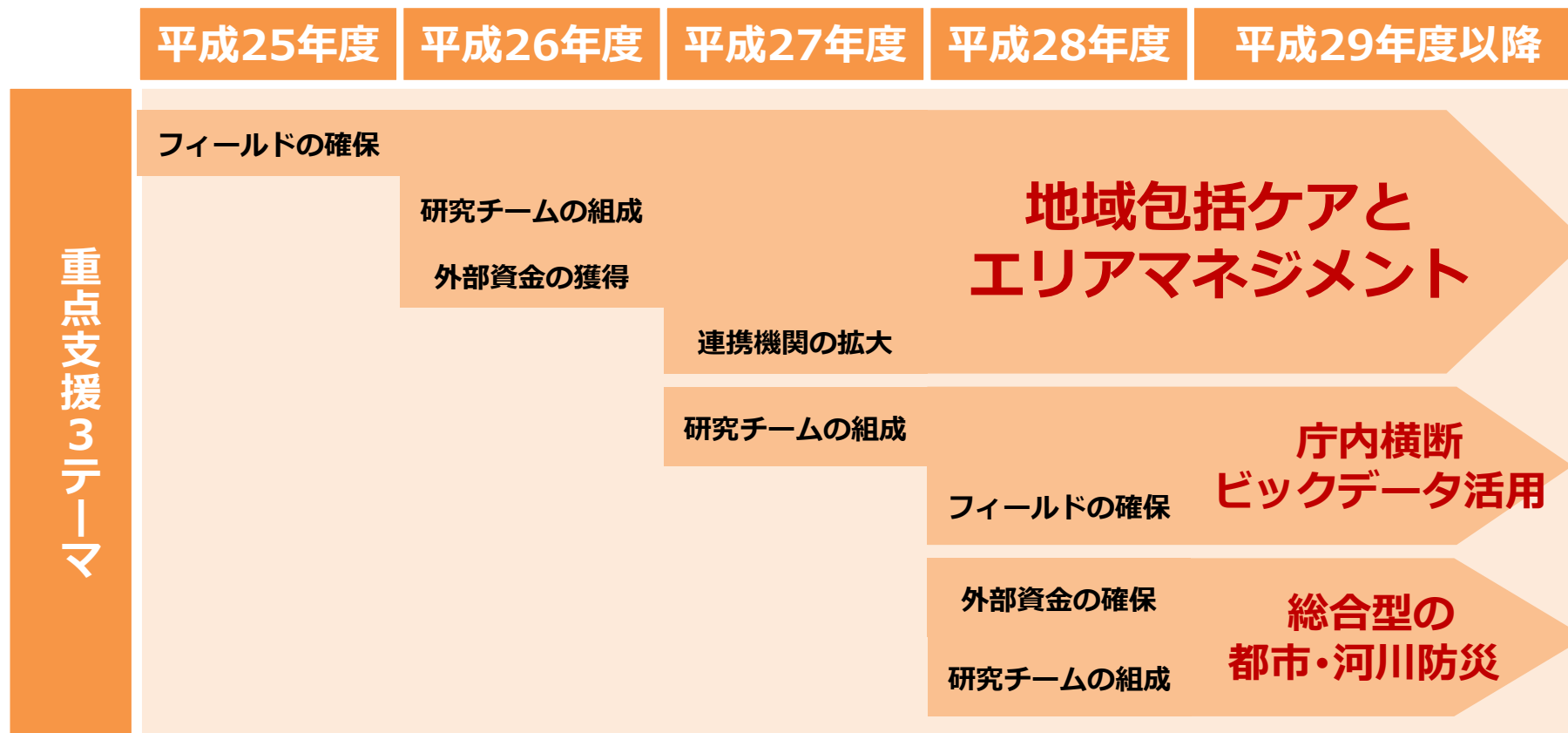
＜平成28年度＞ 15件16,393千円

- ・「外国人観光客を対象とした緊急時・災害時の対応マニュアルの作成と最適情報提供方策の支援システム開発」石川県（いしかわ創生大学連携研究プロジェクト支援事業）
- ・「官民連携可能性調査」南砺市（共同研究） 他、

＜平成29年度＞

- ・「都市・河川防災講座」北陸地域づくり協会（寄附講座） 他、

COC「共創型研究支援」による重点テーマ



重点支援テーマ候補

- ・ **地産地消型エネルギー**（RSET支援、小松市グリーンプランパートナーシップ、他）
- ・ **地域内経済循環**（七尾市産業・地域活性化懇話会、他）
- ・ **観光動態**（外国人観光動態、ビックデータ連動、新幹線開業効果、他）
- ・ **創造的縮減**（人口減少社会の社会インフラ、公共施設再編・再配置、他）

KPI(重要目標指標)に関する達成度

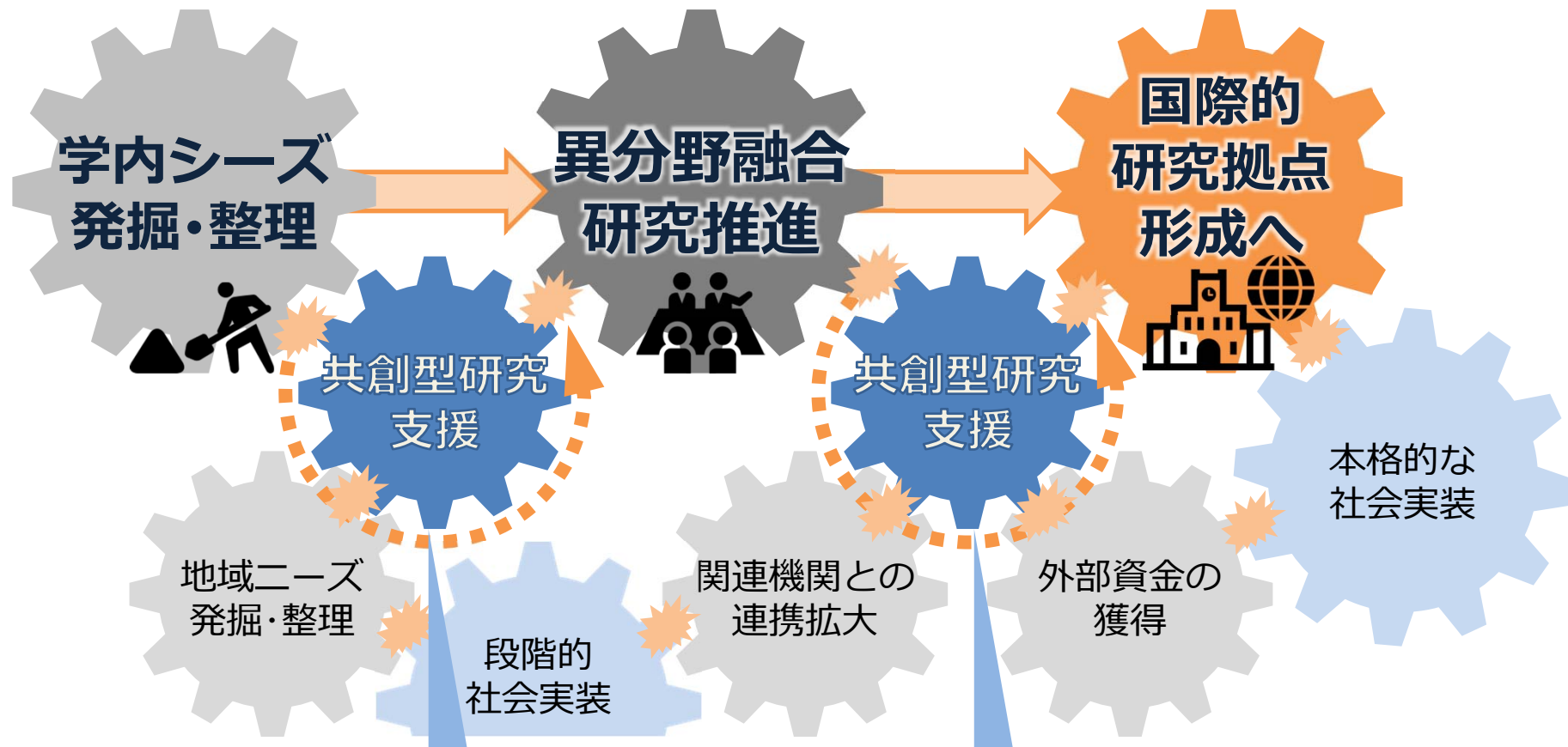
	地域自治体・地元企業との共同研究等の数	地域自治体・地元企業との共同研究等を行う教員数
平成25年度末	64件	88人
平成26年度末	87件	114人
平成27年度末	96件	128人
平成28年度末	108件	130人
平成29年度末	130件	144人
最終年度達成目標	120件	100人

カウントの方法:

- 1) 共同研究、受託研究のうち、相手先機関所在地が石川県内の分。
- 2) 先端科学・イノベーション推進機構協力会(石川県内の企業・団体)の若手研究者奨励賞プロジェクト。
- 3) 地域志向教育研究費およびその継続分。

共創型研究支援プロジェクト

- ・本学が立地し、根を張ってきた**地域の資源・ニーズを発掘・整理して研究テーマに昇華**
- ・**研究者自身の「興味・やる気」を掘り起こし**、組み合わせて異分野融合研究チームを組成
- ・**ボトムアップ型**の異分野融合研究の推進と、その成果の段階的な社会実装を通じて研究拠点化



- ・地域ニーズから従来に無い新しい研究課題を発掘
- ・新しい異分野融合研究チームの立ち上げ

- ・研究深化拡大のための連携ネットワークの構築
- ・研究展開加速のための外部資金の獲得支援

共創型研究支援プロジェクトの設置

(平成30年6月18日)

- 研究域を横断するボトムアップ型異分野融合研究を推進し、自治体、企業、他大学、学外研究機関等との連携により研究成果の社会実装の展開を推進する「共創型研究支援プロジェクト」を、先端科学・イノベーション推進機構の研究部門内に設置する。
- 共創型研究支援プロジェクト委員会：プロジェクトの選定、推進と運営に係る。

日本学術振興会：実社会対応プログラム（公募型研究テーマ）

◆課題（研究領域）：「人口減少地域社会における安心しうるケア・システムの構築と生活基盤の整備」

◆研究テーマ：「データベース解析に基づくケア・システムの地域特性の把握と福祉まちづくりデザイン」

<研究代表者>

研究期間：H27.10～H30.9 委託費総額：11,230千円

佐無田光：金沢大学人間社会研究域／教授



<専門分野> 地域経済学

<Webページ>

<http://samuta.w3.kanazawa-u.ac.jp/html/samuta/index.html>

<研究目的・概要>

課題

- ・健康長寿社会と社会保障費の総額抑制
- ・予算制約下の既存施設の有効活用



地域特性にあったケア・システムの実現

- ・国保データベース、診療データ、国勢調査等を組み合わせて高齢者福祉の地域実態を解析
- ・データ解析で得られた知見をGISで「見える化」して、地域福祉や都市計画に活用



福祉まちづくり政策のデザインおよび評価ツールの開発

<研究計画の特徴>

- ①データの裏付けを伴った施策展開の手順を提示する
- ②人社・医薬・理工の領域にわたる学際的な研究チームを組織
- ③自治体・実務者と連携した調査や社会実装を研究プログラムに含む

<目標とする研究成果>

- (1) 国保データベースの高度活用ツールの開発
- (2) GIS技術による高齢者福祉に関わる空間・時間情報の可視化
- (3) 地域特性データに基づく住民理解促進と地域包括支援センターや自治体と連携したアクションプラン、将来計画への反映
- (4) 地域特性に応じた福祉まちづくり政策のデザインおよび評価ツールの開発

地域包括ケアとエリアマネジメント研究会 (構成メンバー:2018年度)

氏名	専門分野	氏名	専門分野
地域政策グループ		高齢者福祉・健康グループ	
佐無田光 	地域経済学	柳原清子 	臨床実践看護学
武田公子 	地方財政論	板谷智也 	地域看護学
寒河江雅彦 	統計科学	篠原もえ子 	神経内科学
村上慎司 	社会保障論	辻口博聖 	公衆衛生学
平子紘平	産学官連携	岡本成史 	臨床微生物学
エリアマネジメントグループ		崔吉道 	臨床薬理学
高山純一 	交通工学	玉井郁巳 	薬物動態学
藤生慎 	情報工学	宮城栄重 	応用健康科学
西野辰哉 	高齢者施設計画		

証拠に基づく政策立案 (Evidence Based Policy Making)

- 新統計法(2009)では、大学や研究機関が「匿名データ」を二次利用することを認め、国家の管理する統計情報から広く一般に利用可能な統計情報とすることを図っている。
→客観的根拠(エビデンス)に基づく政策の企画立案を推進(第5次科学技術基本計画2011)。
- 実際には、地方創生のKPIなど、形式的対応にとどまる。
- 上からの管理主義的な政策誘導ではなく、地域の多様な関係者によるボトムアップ型の政策連携が必要。
- 自治体や政策関係者がEBPMの考え方を研究者らと共に実践し、次第にノウハウを習熟していく過程を重視。

地域包括ケアとエリアマネジメント研究会

〔研究課題と内容〕

- 地域特性にあったきめ細かい地域包括ケアシステムとエリアマネジメントによる健康社会づくり。国・県の下請け的機能だけでなく、地域の実情にあった具体的な地域福祉政策を立案する手順を域学連携で支援。
- ①国民健康保険DBや後期高齢者DBを使って、高齢者福祉の地域実態(各種データ)を地区ごとに解析するツールの開発。「見える化」されたデータの共有・展開。
- ②高齢者・健康データのまちづくりへの展開。医療・介護サービスとコミュニティ・交通・防災諸機能のデザイン。
- ③地域における医療・介護経済の多面的な側面を総合的に捉える指標やデータの分析など。

主な研究成果発表

- 寒河江他(2016)、小松市の要介護・要支援者の家族介護の実態分析とその介護離職・転職に伴う経済損失の推計、全国産業教育フェア石川大会
- 武田(2017)、国民健康保険の都道府県単位化をめぐる—石川県内の自治体を事例に—、金沢大学経済論集、第37巻第2号、1～27頁
- 藤生・高山他(2015)、国民健康保険データベースを用いた疾患別発症要因分析、第52回土木計画学研究発表会・秋大会
- 藤生・高山他(2016)、高額医療費疾患の発症要因分析—国保データベース(KDB)を用いて—、平成27年度土木学会中部支部研究発表会
- 藤生・高山他(2016)、国保データベースを活用した超高齢社会におけるまちづくり戦略、平成27年度土木学会中部支部研究発表会
- 藤生・高山他(2016)、国民健康保険データベースを用いた災害時要援護者の避難シミュレーション分析、日本地震工学会・大会
- 藤生・高山他(2016)、国保データベースを用いた災害時要援護者の疾患を考慮した避難所の適正配分に関する分析、第36回地震工学研究発表会
- 藤生・高山他(2017)、大規模地震災害時における災害時要援護者の避難シミュレーション～国民健康保険データベースを用いて～、土木学会論文集F6(安全問題)Vol. 72 (2016) No. 2 p. I_157-I_164
- 藤生・高山他(2017)、地域別健康度と地域特性の関係—国民健康保険データベースを用いて—、平成28年度土木学会中部支部研究発表会
- 藤生・高山他(2017)、国民健康保険データを用いた健診回数と疾患発症率の関連性に関する分析、平成28年度土木学会中部支部研究発表
- Yanagihara, Fujii, et al. (2016), The state of medical care for young-elderly cancer patients in regional City A—a focus on medical facility type, commuting distance to hospitals, and communications, The18th World Congress of Psycho-Oncology
- Yanagihara, Fujii, et al. (2016), The state of medical care for young-elderly cancer patients in regional City A—a focus on medical facility type, commuting distance to hospitals, and communications, Jikeikai Medical Journal63(3)
- Yanagihara, Fujii, et al. (2017), Analysis and visualization of health and primary care among the elderly:Using big data to compare districts in K City, Ishikawa Prefecture, Hokuriku Journal of Public Health 44(1)

『地域包括ケアとエリアマネジメント』(ミネルヴァ書房)

- 序章 エビデンスベースの地域政策デザインに向けて 佐無田
- 第1章 地域包括ケアの現状と課題 横山・村上
- 第2章 エリアマネジメントと健康まちづくり 高山
- 第3章 国保データベース・後期高齢者データベースの「見える化」 藤生
- 第4章 エクセルによるCSVデータの解析方法:レセプト・健診データから作る保健事業 板谷
- 第5章 認知症の地区特性に関する考察 篠原
- 第6章 健康の社会格差 辻口
- 第7章 健康データベースと災害情報との組み合わせによる見える化 藤生
- 第8章 高齢者の生活圏域に関するエビデンスを活用した高齢者施設配置の適正化に向けた地理的展開 西野
- 第9章 医療・介護保険の財政分析 武田
- 第10章 家内ケア労働と介護離職問題の実態と社会的費用 寒河江
- 補章 高齢者家族介護と介護離職の実態及び地域包括ケアシステムでの社会的費用 柳原
- 第11章 医療・介護部門の地域産業連関分析 寒河江
- 終章 域学連携研究による地域政策形成 平子・佐無田

関連する自治体との連携

- 石川県小松市：包括連携協定（2012年）、研究情報交換会（2015年）、小松市予防先進政策会議（2016年～）
- 富山県南砺市：包括連携協定（2014年）、共同研究4件（2015年、代表者：高山純一他）。
- 志賀町：先進予防医学研究科と連携協定（2016年）。
- 七尾市：包括連携協定（2012年）。七尾市産業・地域活性化懇話会（2014年）。
- 埼玉県鳩山町：国保データベースを活用したヘルス事業に関する共同研究（2016年、代表者：藤生慎）。
- 羽咋市・日本電気・金沢大学による研究連携協定：データに基づいた「人口減少社会における羽咋市のグランドデザイン」の検討に係る研究（2017年、代表者：寒河江雅彦）。

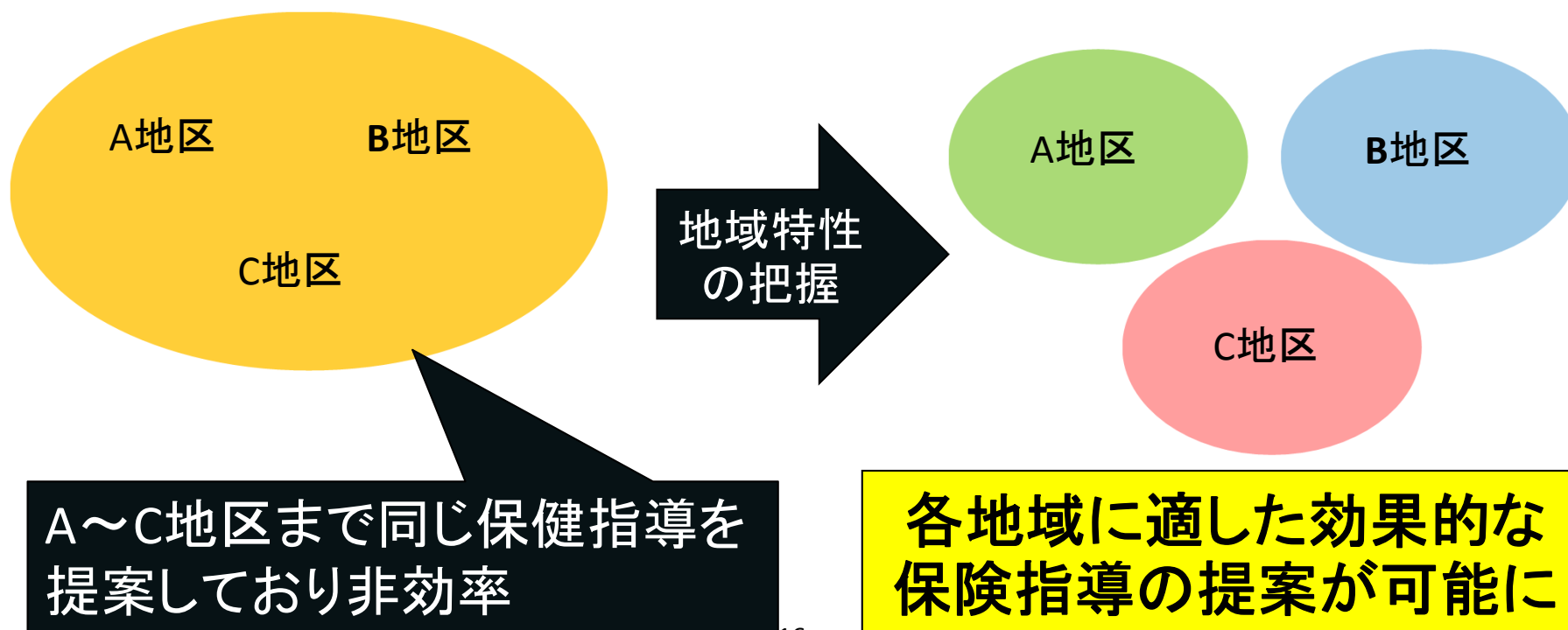
社会実装の事例(1): 小松市予防先進政策会議

- 2013年「日本再興戦略」データヘルス計画。→2014年に小松市より金沢大学に相談。
- 2015年 地域包括ケアとエリアマネジメント研究会(ケアエリア研)スタート。小松市より国民健康保険データの提供(地区統合化されたデータ)。
- 2016年 小松市予防先進政策会議設置。自治体や保健の現場の意見を反映させつつ、研究者と一緒に「見える化」されたデータの分析と施策への反映可能性を検討。
- データ解析を元にして、小松市健康福祉部では「地域の健康状態の見える化」プロジェクトを展開。

KDBデータを用いた地域の健康状態の把握

- 国民健康保険データベース(KDB)を用いて、生活習慣、健康状態、疾患発症率といった**地域特性の把握**

地域の現状把握と現状分析



KDBデータの見える化 小学校区分でみた指標基準値以上率の比較

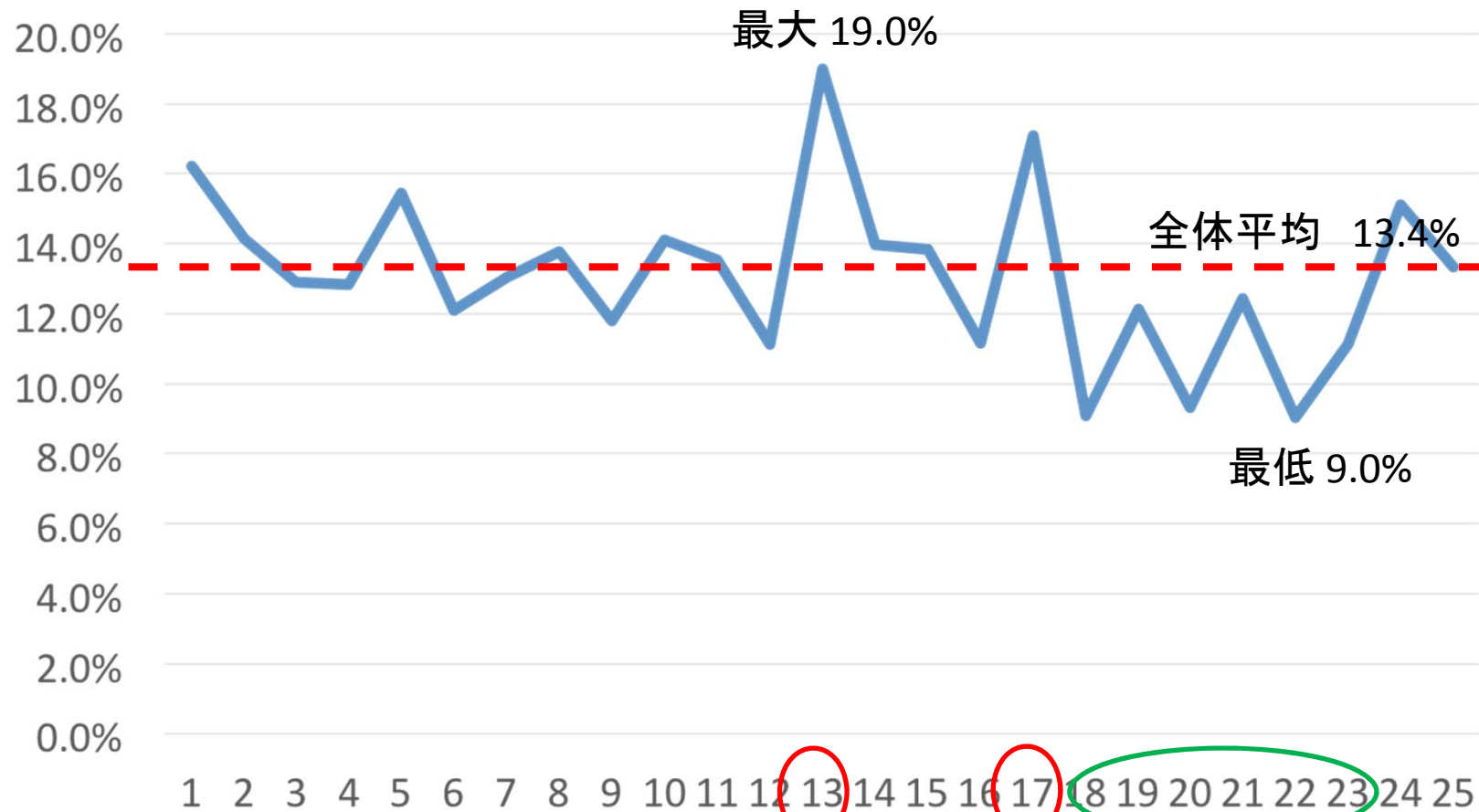
	高血圧症	糖尿病	脂質異常症	虚血性心疾患	脳血管疾患	喫煙者	BMI	腹囲男性	腹囲女性	血中糖度	HbA1c	中性脂肪	最高血圧	最低血圧	LDL	LDL 160 mg/dl 以上
A	—	—	—	—	—	↓	—	↓	—	—	↓↓	↑	↓	↑	↓	↑
B	—	—	—	—	—	↑	—	—	↑	—	↓	↓	↓	↑	↓	↑
C	↑	—	↑	—	—	↓	↑	—	—	—	↓	↑	↑	↑↑	↑	↓
D	↑	↑	↑	↑	—	↓	↑	—	—	↓	↓	↑	↓	↑	↓	↓
E	—	—	—	—	—	↓	—	—	—	—	↓	↓	↓	↑	↓	↑
F	—	—	—	—	—	↓	—	—	—	—	↓	↓	↑↑	↑	↑	↑
G	—	↑	↑	—	—	↓	—	—	—	—	↓	↓	↓	↑↑	↓	↓
H	—	—	—	—	—	↓	↓	↓	—	—	↓↓	↓↓	↓↓	↑	↓	↓
I	—	↑	—	—	—	↓	—	↓	—	↓	↓	↑	↓	↑	↓	↑
J	—	—	—	—	—	↑	↓	↓	—	—	↓	↓	↓	↑	↓↓	↑
K	↑	—	—	—	—	↑	—	↓	—	—	↓	↓	↑	↑	↓	↓
L	↑	↑	↑	↑	↑	↓	↑	—	↑	—	↑	↓	↑↑	↑↑	↑↑	↑↑
M	—	—	—	—	—	↓	—	↓	—	—	↓	↓	↓	↑	↓	↓
N	—	—	—	—	—	↑	—	↓	—	—	↓↓	↓	↓↓	↑	↓	↑
O	↑	↑	—	—	—	↓	—	↓	—	—	↓	↓↓	↓	↓	↓↓	↓
P	↑	—	↑	—	—	↓	—	—	—	—	↑	↓	↑	↑	↑	↑
Q	↓	—	↑↑	↑	—	↓	—	—	↓	↓	↑	↓	↓↓↓	↓	↓	↓↓
R	↑	—	—	—	—	↓	↑	—	↑	—	↑↑	↑↑	↑↑↑	↑↑	↓	↓
S	↑	↑	↑	↑	↑	↓	—	—	—	—	↑	↓	↑	↑	↑	↓
T	—	↓	↓	—	—	↑	↑	↑	—	↑	↑	↑	↓	↑	↑	↑
U	—	—	—	—	—	↓	—	↓	—	—	↓	↑	↓	↑	↑	↓
V	—	—	—	—	—	↓	—	—	—	—	↓↓	↑	↓	↓	↓	↑
W	↑↑	↑	—	—	↑	↑	—	↑	—	↑	↓	↑	↓	↑	↑	↑
X	—	—	—	—	—	↑	↑	—	↑	—	↓	↑	↓	↑	↓	↑
Y	—	—	—	—	—	↑	—	—	—	↓	↓	↓	↓↓	↑	↑	↓

相対的な各疾患割合及び
各指標基準値以上割合の高さ

↑↑↑ : とても高い
 ↑↑ : 高い
 ↑ : やや高い
 — : 普通
 ↓ : やや低い
 ↓↓ : 低い
 ↓↓↓ : とても低い

小学校区別(25校区)の認知症患者数割合 (75歳以上)

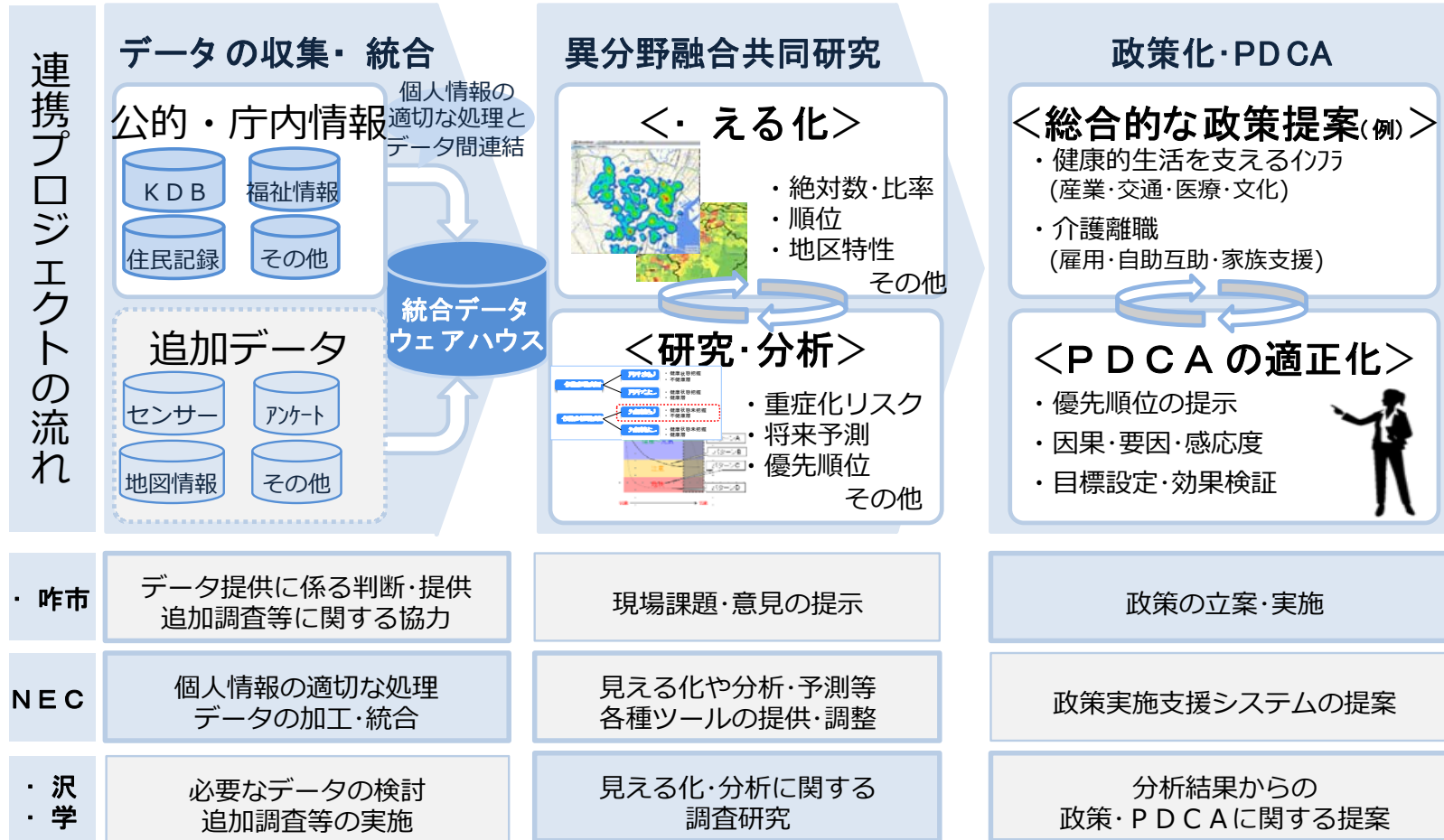
人口は平成27年9月時点



地区ナンバー

社会実装の事例(2):羽咋市・日本電気・金沢大学による研究連携協定

「ビッグデータに基づいた・減少時代の・咋ランドデザイン」の検討に係る連携・協・【概要図】



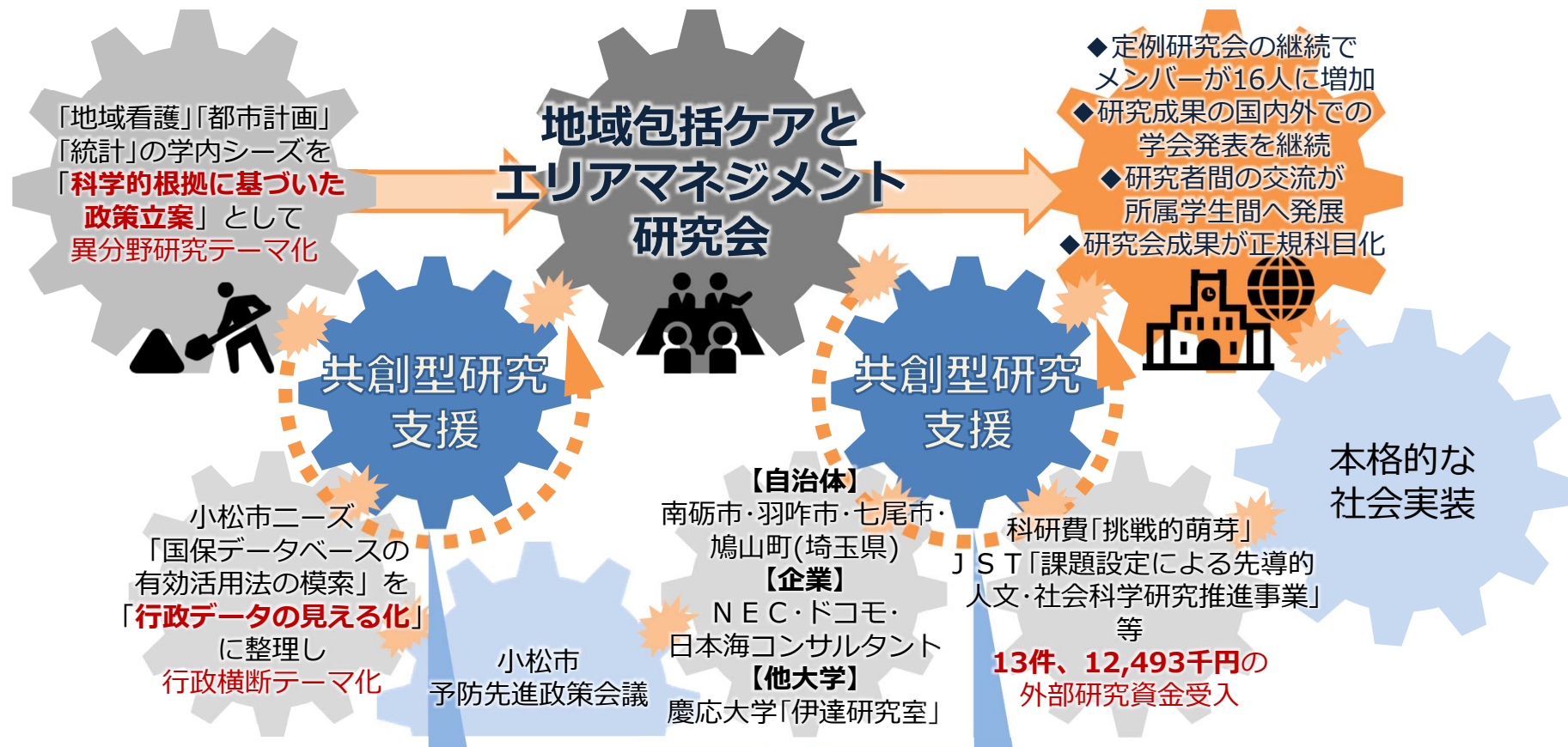
「がんばる羽咋創生総合戦略」への協力や、平成27年度から進めている関連するテーマの共同研究等をベースに羽咋市における地域情報の総合的な見える化と、データに基づいた政策立案による

・ 咋市の健康寿命延伸への貢献を・指す！

「地域包括ケアとエリアマネジメント」における支援事例

「地域包括ケアとエリアマネジメント」の特徴

- ・地域の「健康づくり」「まちづくり」「健康寿命延伸」を融合した総合的なアプローチ
- ・人社・医薬保健・理工の3研究域から16名が参加する学内定期研究会を設置
- ・行政データ・行政施策と一体的な異分野融合研究を推進、研究と社会実装の有機的な連携



- ・異分野研究融合・強化に向けた学内勉強会13回
- ・研究者・自治体関係者間のマッチング75回

- ・本チームで大型研究資金申請に何度もチャレンジ
- ・横断ビックデータ活用など他研究テーマにも派生